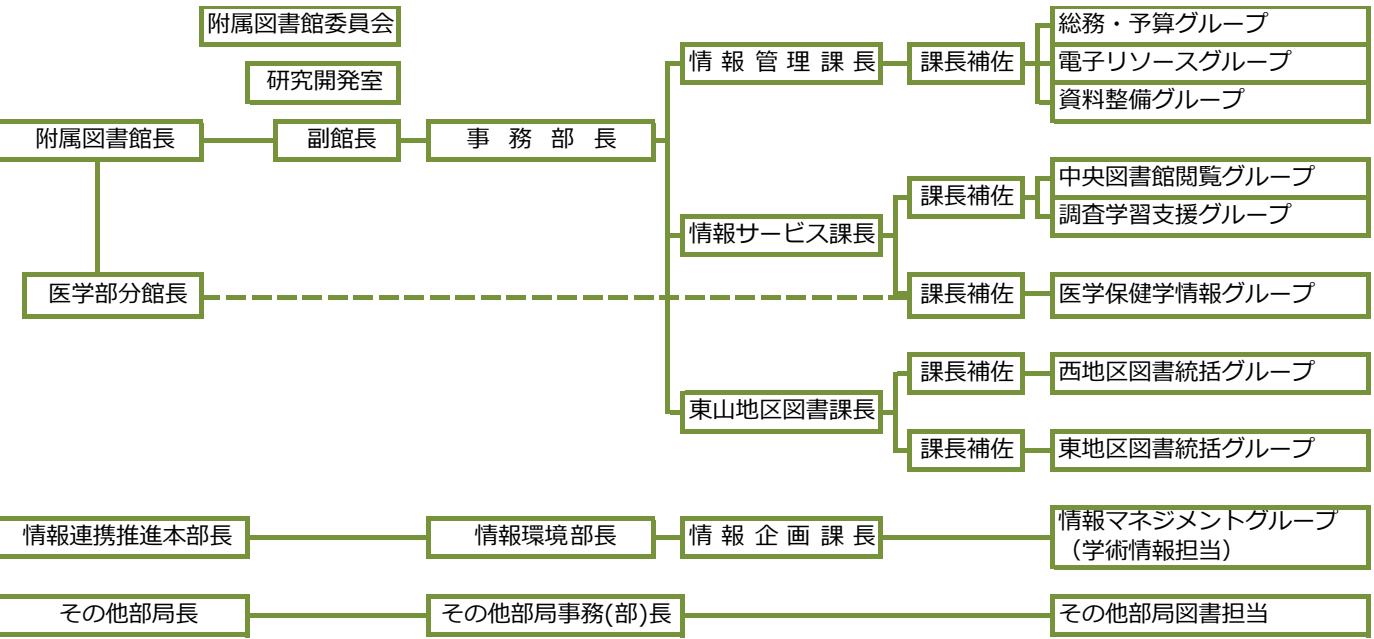


- 0 中央図書館 1 文学図書室 2 教育発達科学図書室 3 法学図書室
4 アジア法資料室(法学図書室分室) 5 経済学図書室
6 国際経済政策研究センター情報資料室 7 情報・言語合同図書室
8 国際開発図書室 9 理学図書室 10 工学中央図書室 11 化学・生物図書室
12 電気・情報図書室 13 機械・航空宇宙図書室 14 土木図書室
15 生命農学図書室 16 宇宙地球環境研究所第一図書室,未来材料・システム研究所
17 宇宙地球環境研究所第二図書室 18 情報基盤センター図書室
19 総合保健体育科学センター図書室 20 国際機構図書室 21 創薬科学図書室
22 ジェンダー・リサーチ・ライブラリ



附属図書館の運営及び事務組織

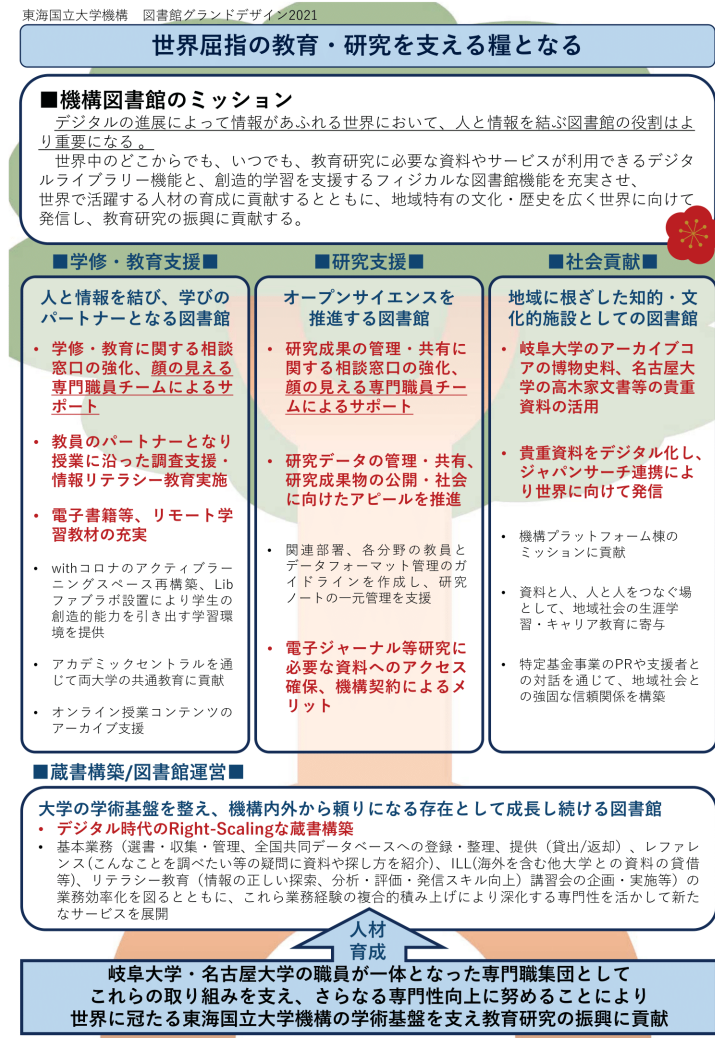


名古屋大学附属図書館概要

2025



東海国立大学機構における図書館の在り方についてグランドデザインを策定しこれに基づいた活動を行っています。



ラーニング・コモンズ

中央図書館ラーニング・コモンズは、自律的な学習を支援し、知識の創造を促す図書館の新しい学習空間です。以下のような学習環境を学生みなさんに提供することを目指しています。

- 図書館の学術情報基盤をもとにして、協同学習、ITを活用した学習が行える総合的な学習環境
- 情報リテラシー能力の育成及び学習を効果的に行えるサポートサービス
- 学習及び学生生活に関する各種情報の提供



<https://www.nul.nagoya-u.ac.jp/lc/>

沿革

1939年	4月	名古屋大学帝国大学(医・理工2学部)創設 医学部構内(昭和区鶴舞町)に附属図書館開設、各学部に図書分室設置
1942年	4月	理工学部が工学部と理学部に分離、両学部に図書分室設置、東山キャンパスへ移転
1945年		空襲により図書館資料の一部焼失
1946年	3月	環境医学研究所附置に伴い図書館設置
1947年	10月	名古屋大学附属図書館に改称
1948年	9月	文学部及び法経学部設置に伴い両学部に図書分室設置
1948年	10月	附属図書館が昭和区鶴舞町から中区南外堀町へ移転
1950年	4月	法経学部の分離に伴い法学部図書室、経済学部に図書分室設置
1952年	4月	瑞穂分校及び豊川分校統合による教養部(瑞穂区瑞穂町)設置に伴い図書分室設置
1952年	9月	農学部設置(安城市新田町)に伴い図書分室設置
1960年	8月	文・理の2学部を除く各学部に図書掛設置
1964年	12月	東山キャンパスに古川図書館(中央図書館)開設
1966年	4月	農学部(図書室)東山地区へ移転
1970年	10月	附属図書館報『館燈』創刊
1973年	3月	鶴舞キャンパスに医学部分館設置
1981年	9月	新中央図書館開館
1994年	10月	中央図書館増築工事竣工
2001年	4月	附属図書館研究開発室設置
2006年	2月	名古屋大学学術機関リポジトリNAGOYA Repository公開
2009年	12月	中央図書館にラーニング・コモンズ設置
2010年	5月	中央図書館にコーヒーショップ開店
2010年	7月	理学部の全学科図書室を統合し理学図書室開室
2011年	6月	工学部中央図書室がES総合館に移転開室
2012年	6月	金沢、静岡、名古屋大学附属図書館による「学習支援促進のための三大学連携事業に関する協定」締結
2014年	3月	中央図書館老朽対策等基盤整備事業竣工
2015年	3月	医学部分館(鶴舞・太宰キャンパス)改修事業竣工
2016年	4月	名古屋大学オープンアクセスポリシー制定
2017年	3月	アイソトープ総合センター図書室廃止
2017年	4月	附属図書館支援事業(特定基金)設置
2017年	10月	附属図書館事務部組織の再編
2017年	11月	ジェンダー・リサーチ・ライブラリ開館
2018年	7月	ビブリオサロンをOKB高木家文書資料館へ改称
2019年	7月	高木家文書が国の重要文化財に指定される
2020年	4月	東海国立大学機構が発足 附属図書館は運営支援組織へ改組
2021年	7月	中央図書館にメイカースペース設置
2022年	6月	環境医学研究所図書室廃止
2023年	9月	中央図書館ネーミングライツ事業を開始

学術情報のデジタル化・情報発信

附属図書館が所蔵する高木家文書、伊藤圭介文庫、和漢古典籍の電子化により、普段接することのできない貴重資料を「東海国立大学機構学術デジタルアーカイブ」にて公開しています。



<https://da.adm.thers.ac.jp>

また、NAGOYA Repository(名古屋大学学術機関リポジトリ)を構築し、学術論文や学位論文など学内で生産された学術情報の発信を行っています。

<https://nagoya.repo.nii.ac.jp/>

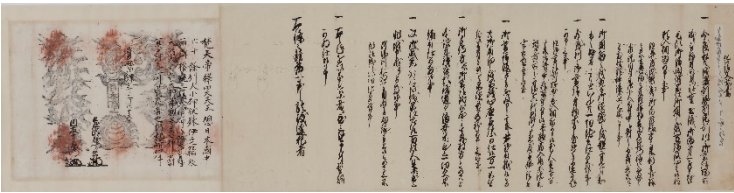
おもなコレクション

高木家文書

高木家文書は、美濃国石津郡時・多良両郷(現・岐阜県大垣市上石津町域)を本拠とする、旧旗本交代寄合・西高木家に伝来した古文書群です。総数は10万点に及ぶとみられており、幕府瓦解とともにほとんどの旗本資料が散逸したなか、他に例をみない、傑出した規模と内容を有し、2019年7月には一部が国の重要文化財に指定されました。

旗本領主制の研究に寄与する旗本文書であるだけでなく、国内最大級の系統的河川・治水史料でもあることから、高い評価と注目を集め、様々な分野で活用されてきました。

現在までに 5万2,000点余が目録化されており、附属図書館研究開発室では、残る書状類の整理を進め高木家文書の全体像の解明に取り組むとともに、損傷・劣化が進んだ文書の修復と保存環境の改善、利用環境の向上に努めています。



宝暦4(1754)年2月15日付 起請文

数字で見る附属図書館（2024年度）

蔵書数

	和 書	洋 書	合 計	所蔵雑誌種類数
中央図書館	716,930	516,888	1,233,818	17,867
医学部分館	110,348	80,210	190,558	5,857
部局図書室	1,048,541	925,663	1,974,204	32,122
合 計	1,875,819	1,522,761	3,398,580	55,846

利用者数等

	開館日数	入館者数 ()内学外入館者	貸出冊数
中央図書館	352	573,672 (18,564)	125,072
医学部分館	365	91,993 (270)	7,893
部局図書室	130~258	330,710 (2,322)	71,321
合 計	—	966,864 (15,949)	206,675

伊藤圭介文庫

日本における近代植物学の祖といわれる伊藤圭介の稿本（手書き本）188冊を集めたもので、その中には、『錦窠植物図説』、『錦窠魚譜』、『錦窠蟲譜』などの図譜のほか、『採草叢初』などがあります。



『錦窠植物図説』より

水田文庫

アダム・スミスの世界的研究者である故水田洋名古屋大学名誉教授および夫人の水田珠枝名古屋経済大学名誉教授の旧蔵書で、近代西欧思想史関係原典、ジェンダー関係著作等約8,600点のコレクションです。



水田文庫の一部

施設

	面 積 (㎡)	座席数
中央図書館	15,597	1,037
医学部分館	3,002	430
部局図書室	10,176	582

電子図書館サービス

電子ジャーナル提供数	18,920誌
電子ジャーナル利用件数	5,103,276件
電子ブック提供数	49,561点
データベース検索数	955,344件
NAGOYA Repository登録件数	41,602件